

A 社		
業種	製造業 (金属)	<対策のポイント> ・取引先からの要請に応えるために、情報管理の取組を推進。守るべき情報を真に重要なものに絞り、業務への影響を抑えつつ、現場の理解を促しながら、クラウド移行や可搬式記録媒体の管理等の対策を進めている。
従業員数	201-300 名	
地域	近畿地方	
設立	2000-2009 年	
■ 技術情報の管理に関する現状		
管理対象となる技術情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定のお客様から預かった情報、自社の技術情報を管理対象とした。 	
管理に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 紙が中心の管理であり、持ち出しや利用状況の把握が困難であった。 	
■ 技術情報管理の取組		
技術情報管理の取組	<ul style="list-style-type: none"> ● ここ 5 年間で、重要な情報を徐々にクラウドに移行した。キャビネット 1 台分の紙文書を廃棄した。重要な情報は工場の壁への掲示も止めた。 ● 重要な情報としてクラウド化する情報は、まず一部の事業に限った。監督職以上にアクセス権を持たせ、対象者に対して理解を進めた。一般職は、監督職の許可が必要になったので、手間を感じている可能性はある。 ● 可搬式記録媒体 (PC,USB メモリ等) は、重要情報に限らず全社一律で同じ管理とし、持ち出しを許可制にした。帰宅時は PC を施錠管理するようにした。 ● 試作品については、業務上社員の立ち入りがあり、入室制限を行える場所で保管することが難しい状況だった。できるだけお金をかけず、監視カメラを新たにつけることから始めた。 	
■ 技術情報管理認証の取得理由／情報管理の取組理由		
認証制度の認知媒体	<ul style="list-style-type: none"> ● 認証機関のパンフレットによって技術情報管理認証制度を知った。 	
認証取得／情報管理の取組のきっかけ・理由	<ul style="list-style-type: none"> ● 中小企業庁の補助事業に申請する際、管理団体から情報管理の状況について質問を受けた。チェックシートの対策項目がほとんどできていなかったことに危機感を感じた。 ● 取引先から情報管理に関する要請が再三あり、どうしてよいかわからなかったところ、情報管理認証制度のパンフレットを見て、取り組むことにした。 ● ISMS (情報セキュリティマネジメントシステム) 認証はハードルが高かったため、技術情報管理認証を取得することにした。 	
■ 技術情報管理の取組や認証取得による効果		
技術情報管理の取組や認証取得による効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 取引先からの情報管理の要望に対して対応できる状況となった。 ● 情報管理はこれで終わりということはないので、継続して取り組んでいきたい。 ● 現在は、事業継続計画 (BCP) 策定の取組を始めたところであり、災害対応を主に考えているが、情報漏えいの観点も取り込むことで、対外的にいいアピールができるかもしれないと考えている。 	

B 社		
業種	製造業 (自動車部品)	<対策のポイント> ・お客様から業界のセキュリティチェックリストの対策が要請されていることから、ハード的な対策と共に、社員の意識を高めながら運用面の対策を進めている。自社独自のわかりやすい啓発資料を用いて教育を行い、DX 推進とともに、その情報を守る重要性も意識付けている。
従業員数	101-200 名	
地域	中部地方	
設立	1950-1959 年	
■ 技術情報の管理に関する現状		
管理対象となる技術情報	<ul style="list-style-type: none"> 取引先から預かった図面データ、それを元にどのように作るかという情報が最も重要である。 自社のノウハウ、現場のデータ（手順書、IoT で収集した現場のデータ：品質や生産性向上、設備を止めないための設備情報等）が重要な情報である。 最近では電子データが多いが、今でも紙の情報はある。取引先とはモノでのやりとりもある。 	
管理に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> 情報の取り扱いに関する社内の認識に、上と下とでギャップがある。社内で制度化し、対策を練っても、現場が思うように動かないところが課題である。 他社事例を見ると、トップダウンで会社として取り組むと、教育の頻度も高く、うまくいっているように見える。逆にリーダーシップがなく、情報管理の取り組みを行う宣言ができていないと、現場に意識の高い人間がいても、トップはそう言っていないからと受け流されてしまう。 	
■ 技術情報管理の取組		
技術情報管理の取組	<ul style="list-style-type: none"> 自動車産業サイバーセキュリティガイドラインのチェックリストが回ってきて、お客様から、期間内で評価点を満たす対策を要請されているため、それに沿って対策に取り組んでいる。 ハード的な対策はわかりやすく、チェックリストの評価に反映されやすいため、ファイアウォールの導入等から実施し、社員の意識を高めつつ、運用面も合わせて対策を進めている。 社内のセキュリティに関する意識を高めるために、IPA「5 分でできる！情報セキュリティ自社診断」を参考に、自社向けに社内事例を交えてわかりやすくした資料を作成し、社員が集まる機会を活用し、5～10 分で説明している。 データ活用を促しながら、合わせてセキュリティに関しても教育をしようと考えている。 社内だけでは情報も限られ、進め方もわからないので、支援機関からの専門家派遣を受け、DX と合わせてセキュリティの取組を進めている。 	
■ 技術情報管理認証の取得理由／情報管理の取組理由		
認証制度の認知媒体	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業団体中央会から案内を受けた。 	
認証取得／情報管理の取組のきっかけ・理由	<ul style="list-style-type: none"> きっかけは、自動車産業でセキュリティインシデントがあり、業界団体から具体的な対策実施の通達が回ってきたことである。顧客からの強い要望は取組を始めるきっかけとなった。 認証取得により情報を守る姿勢をお客様に見せていくことは重要。しかし、固定客である場合は、強みを見せて新たにアピールする必要性が薄い。新規顧客開拓に取り組む企業にとっては、積極的に活用できると考える。 	
■ 技術情報管理の取組や認証取得による効果		
技術情報管理の取組や認証取得による効果	<ul style="list-style-type: none"> 社内の情報を見直し、その価値を再認識できることはメリットである。新たな事業展開に繋げることができると感じる。対策には費用がかかるので、投資としていくらまでできるか、事業に対する効果を考えていくのは重要である。情報資産をどう捉え、どう活用していくかは、中小企業の生き残りや活性化のために必要である。 	

C社		
業種	製造業 (精密機械)	<対策のポイント> ・重要な技術情報を適切に管理し流出漏洩を防止し守ることで自社の事業活動の継続及び競争力を強化する。
従業員数	51-100名	
地域	近畿地方	
設立	1970-1979年	
■ 技術情報の管理に関する現状		
管理対象となる技術情報	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様からお預かりした技術情報、自社製品の開発情報、お客様へ納入した製品の技術情報 	
管理に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 可搬式記憶媒体（外部メモリ、NAS（ネットワークに接続可能なハードディスク））の取扱いについて規程で定め、会社から支給されたもののみを使用、使用都度のチェックや万一紛失時の措置等も含めているが、取り扱いの維持継続を懸念している。 	
■ 技術情報管理の取組		
技術情報管理の取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 制度を知ってすぐ認証に向けて取り組んだわけでは無く、中期経営計画で取得を計画した。重要技術の特定（守る情報の決定）、重要技術の識別・措置方法や管理プロセスについて規程として策定した。策定及び運用にあたり、以下に工夫し取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 技術情報管理認証制度のチェックリストを基に、わかりやすい用語を用いて、自社で実施していた事項も含めルール化した。 ➢ 技術情報の特定に時間を要したが約300項目のチェックリストの理解とそれを考慮し重要技術情報を守る為に何に取り組むべきか検討した。 ➢ INPIT（独立行政法人 工業所有権情報・研修館）や経済産業省主催のセミナー受講等により知識習得や従業員の意識向上に取り組んだ。 ➢ 内部監査はISO9001、14001、技術情報管理認証の3つのマネジメントシステムを同時に実施。該当プロセスを総合的に監査し改善につなげること、現場の負担軽減にもなっている。 	
■ 技術情報管理認証の取得理由／情報管理の取組理由		
認証制度の認知媒体	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本経済新聞（2017年に掲載された記事を見て） 	
認証取得／情報管理の取組のきっかけ・理由	<ul style="list-style-type: none"> ● 兼ねてからお客様からお預かりする技術情報の保護、自社技術情報の管理に取り組む必要があると認識していたことと、取り組みのお墨付きをいただけるものであるため。 	
■ 技術情報管理の取組や認証取得による効果		
技術情報管理の取組や認証取得による効果	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様情報の保護、自社技術情報の管理に対する従業員意識の向上がみられる。 ● 経済産業省のホームページにも掲載いただき士気が上がるが、活動を継続し改善を繰り返すことで認証にふさわしいよう努力している。 	

D 社		
業種	製造業 (金型)	<対策のポイント> ・情報管理を進めるにあたって、製造業で馴染みのある 3S 活動（整理・整頓・清掃）を活用し、現場の納得を得ながら段階的に取組を進めた。定期的な教育により現場の意識付けを行い、利便性と管理のバランスを取りながら対策を進めている。
従業員数	201-300 名	
地域	近畿地方	
設立	1960-1969 年	
■ 技術情報の管理に関する現状		
管理対象となる技術情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報資産の特定から始めた。重要情報はお客様からお預かりした情報で、主に製品図面である。共同で技術開発を行う場合は、技術的な仕様書を共有することもある。 ● 9 割以上は電子データで取引先とやりとりを行っているが、印刷した紙を使うこともある。 	
管理に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報管理の運用を徹底することは難しい。定期的に情報管理の教育、リマインドを行うことが課題と考えている。人の出入りがあるので、どういったトレーニングをしていくか規程を作り、最初に説明会を実施している。1 年に 1 回など、定期的な実施が必要と考えている。 ● どんどん便利なサービスが出てきており、利便性と管理のバランスが難しいと感じている。 	
■ 技術情報管理の取組		
技術情報管理の取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報は極力一元管理している。最近では、社内の情報共有のために、営業部門の情報管理ツールを技術部門にも展開し、扱う情報に「重要」マークをつけて取り扱おうとしている。 ● 印刷物が綴じられたファイルにはお客様図面も含まれるので、ファイルを保管したキャビネットを入退室管理が可能な部屋に設置し、古い情報は倉庫の施錠可能な場所に置いた。 ● 最初は、経験が長いエンジニアほど、情報を傍に置きたいという要望があった。認証取得活動の一環として、期間を区切って対策を進めたところ、手間が増えたという声はなかった。 ● 現場の納得を得るために、段階を踏んで取組を進めた。スペースを確保するために一時的な置き場所を作った。100 冊～150 冊のファイルが入るキャビネットで、使ったり参照したりしたらシールを貼る取組を行い、1 ヶ月経ってシールを貼られていたらその場所に置く、2 ヶ月経ってシールが貼られていなかったら倉庫に行くなど、利用状況に応じた整理を行った。 ● 元々、徹底 3S 活動（整理・整頓・清掃）という製造業の基本的な取組を行っており、要るものと要らないものを分ける、道具箱の中身で利用頻度の高いものはここに入れる、といった活動をこれまでも実施していたので、馴染みやすかったのではないかと。 ● 強制的なアプローチではあったが、情報セキュリティの担当が、重要情報を持つ部門の出身で、現場に対する理解が深かったことから、話が通りやすかった。 	
■ 技術情報管理認証の取得理由／情報管理の取組理由		
認証制度の認知媒体	<ul style="list-style-type: none"> ● 業界団体から案内を受けた。 	
認証取得／情報管理の取組のきっかけ・理由	<ul style="list-style-type: none"> ● 業界団体からの推奨がきっかけとなったが、取引先からも確認を受けることが増えてきたため、認証を取得することを決めた。 	
■ 技術情報管理の取組や認証取得による効果		
技術情報管理の取組や認証取得による効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 営業部門が名刺の認証マークを見せながら情報管理の取組をお客様に説明すると、安心だと納得される様子である。 ● 取引先から情報管理の取組状況について確認される際、認証取得していることで対策状況を説明できることも効果の 1 つである。 	

E社		
業種	製造業 (金型)	<対策のポイント> ・在宅勤務の増加等も背景にクラウド化を推進。お客様のデータもクラウドに載せることで、一元管理を行うと共に、スペースの問題やデータ消失リスクへも対応。認証取得をきっかけに対策が進み、取引先が求める対策レベルをクリア。
従業員数	201-300名	
地域	関東地方	
設立	1950年以前	
■ 技術情報の管理に関する現状		
管理対象となる技術情報	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様のデータ、CAD/CAMが重要な情報である。 	
管理に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 認証を取る際に、各工場からのインターネット接続は直接では無く、閉域網にして本社経由にした方が良いというアドバイスがあり、ネットワークに関して精査を行っている。コロナで在宅勤務も増え、境界で守るやり方から、ゼロトラストを前提に考え方を変えている。 	
■ 技術情報管理の取組		
技術情報管理の取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 以前は、社内サーバに保存していたが、現在はクラウドストレージに保存して管理を行っている。ファイル名も、製造番号と紐付く形で関連性をつけて付番している。 ● クラウドストレージは容量無制限のもので契約している。買い足す心配がなく、スペースの問題や、故障してデータを消失するリスクもない。 ● CADデータは容量が大きいので、ネットワークを介すことでレスポンスが悪くなる懸念もあったが、読出・書込を全てクラウド上で実施してもレスポンスは問題にならなかった。フォルダもメールアドレスと紐付いており、アクセス権の設定や退職者がいたらアカウントを外すなども容易にできる。 ● 各事業部に管理者を設け、フォルダのアクセス管理は各事業部の担当者が専任で実施している。 ● 製造部門に限らず、あらゆるアプリケーションについて徐々にクラウドに移行している。 ● USBメモリは基本的には私物は使わない、持ち出し可能な機器はセキュリティワイヤーをつける、外出時は盗難に注意するなど、管理規程を設けている。情報の持出がないよう、USBポートに物理的に栓をするなどの対策も行っている。 	
■ 技術情報管理認証の取得理由／情報管理の取組理由		
認証制度の認知媒体	<ul style="list-style-type: none"> ● 業界団体から案内を受けた。 	
認証取得／情報管理の取組のきっかけ・理由	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車メーカーのセキュリティ事案をきっかけに、お客様に迷惑をかけてはいけないという意識が高まり、認証を取るべきと考えた。 	
■ 技術情報管理の取組や認証取得による効果		
技術情報管理の取組や認証取得による効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 社員のセキュリティに対する意識が高まった。社員の中で、この情報をインターネットに上げてよいのか、といった情報セキュリティに関する話が出るようになった。 ● 自動車産業サイバーセキュリティガイドラインのチェックシートが、いろいろなお客様から届いている。また、とある家電メーカーからも情報セキュリティに関するヒアリングを受け、合格の点数をいただいた。認証取得に際し、助言を受けたことで情報管理の取組が進み、対外的にもアピールできるようになったことは、非常によかったと考える。 	